

豊川市水道事業発注工事 －竣工図作成基準－

令和8年8月 改定

豊川市上下水道部 水道整備課

1 総則

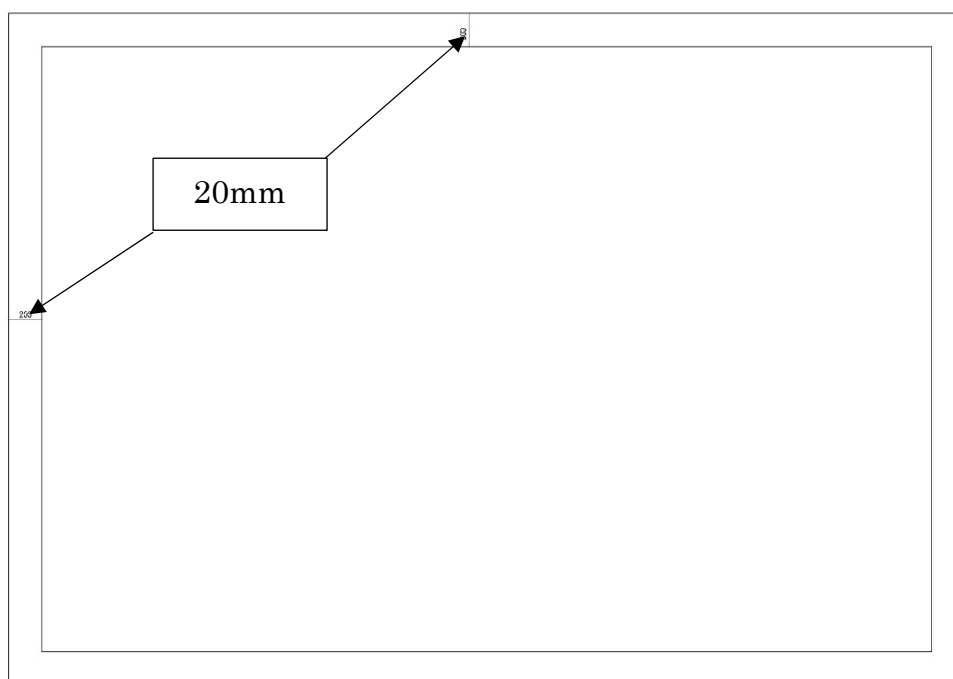
1. 適用

この基準は、豊川市水道事業が発注する導水管、送水管、配水管、並びに配水管布設替工事等に伴う給水引込管新設工事で竣工図面の作成に適用する。

本基準は原則となる指針であり、詳細については監督員と協議して決定すること。

2. 提出図面

- (1) 工事完了後直ちに竣工図を作成し、竣工図チェックリスト（様式 1）で確認の上、工事完了書類の一部として提出する。また、竣工図は事前確認に監督員が確認を行った後に指示があった箇所を修正して 1 部提出する。（電子データ含む（PDF・Jww・Dxf 等））
- (2) 図面の構成は、位置図、平面図、断面図（標準断面図）、配管詳細図（側面図含む）、オフセット図、給水管詳細図を基本とする。図面サイズは、A3(297mm×420mm)とする。枚数は、データ量の軽減及び表示の見易さを考慮した上で、できる限り少なくする。
- (3) 図面には、輪郭を設ける。輪郭線は実線とし、線の太さは 1.4mm を標準とする。輪郭外の余白は 20mm を標準とする。



- (3) 位置図、平面図、断面図、配管詳細図及びオフセット図は、複数の路線がある場合であっても、原則として同一の紙面に記載する。なお、これらを別図面に記載する場合は、路線名、測点等により、その関連を明確に表示する。
- (4) 給水管詳細図は、各給水管引込の 1 箇所につき図面サイズは、A4 一枚にて作図する。分岐の場合は、分岐関係を明示し、親栓番及び子栓番を図面に記入する。
- (6) 管種の表示記号は、日本水道協会発行の「水道工事標準仕様書【土木工事編】2010」、
「日本ダクタイル鉄管協会便覧」及び「水道配水用ポリエチレン管及び管継手 設計マニュアル」に準拠する。

3. 文字

- (1) 文字及び数字は明瞭に書き、横書きを原則とする。
- (2) 数字はアラビア数字を用い、コンマを打つものとする。

4. 線

- (1) 作図に使用する線種は、新設管：実線、既設管：破線、他埋設物：一点鎖線及び二点鎖線の4種類とする。
- (2) 太さは必要に応じて適切なものを用いる。
- (3) 線種と線の太さは、紙出力で印刷時の見え方を考慮した線種を下記の表1のとおりとする。

表 1

細線	太線	極太線	比率
0.50mm	1.00mm	2.00mm	1 : 2 : 4
0.35mm	0.70mm	1.40mm	
0.25mm	0.50mm	1.00mm	

5. 寸法

- (1) 寸法表示は、個々の寸法、全体の合計寸法と順次外側に記入する。
- (2) 工事延長、布設延長及び平面延長は m を原則つけ、数値は小数点 1 位まで表示する。その他の延長は小数点 2 位まで表示し、単位記号は付けない。境界杭等が不明確な場合、給水位置が平面図の誤差確認になるため、仕切弁、新旧連絡、折れ点からの距離を記載。
- (3) 他の埋設物件の位置及び深度の数値は、少数点 1 位まで表示する。

6. 作図一般

- (1) 作図には、C A D 等を用いる。
- (2) 文字及び線は、図面をスキャナーで読み込んだ際、明瞭かつ十分に識別ができるものとする。
- (3) 竣工図作成例に記載がない管種や工種については、表記の仕方を監督員と協議し、決定すること。

2 細則

1. 竣工図の縮尺

原則として以下の縮尺を基準とする。ただし基準によりがたい場合は、監督員と協議して、その図に適した縮尺を選定すること。また、図面各図とも縮尺は必ず記載すること。

- (1) 位置図 S=1/2,500
- (2) 平面図 S=1/500、S=1/1000
- (3) 断面図 S=1/100、S=1/50
- (4) 配管詳細図 S=FREE
- (5) オフセット図 任意縮尺
- (6) 給水管詳細図 S=1/100

2. 位置図

- (1) 原則として監督員から提供された竣工図用下图を参照する。
- (2) 施工箇所のある位置を示すものであるため、原則として紙面上部を北とし、町名、目標となる建物等の名称、方位を正確に記入する。
- (3) 施工箇所は、太い実線を用いて囲み、明確に分かる表示とする。なお、複数の路線がある場合は路線名【路線○】も記入する。

3. 共通事項（平面図・配管詳細図・断面図・オフセット図）

- (1) 管路の表示は、次のとおりとする。
 - ア. 新設管は太い実線で記入する。
 - イ. 既設管は細い破線で記入する。
 - ウ. 呼び径は mm 単位、全延長は m 単位で仕切弁、消火栓、分岐点、折れ点等の区切りを合算し少数点 1 位まで（0.1m単位）、区間ごとの延長は小数点 2 位（0.01m単位）まで記入する。有効桁以下は切り捨てとする。
 - エ. 新設管及び付属具類（仕切弁、消火栓等）は、形状寸法（管種・継手・呼び径）及び延長（箇所数）を記入する。また、ロケーティングワイヤーを施工した場合はその旨も記入する。なお、管種については、図面内に注釈として記載することもできる。
 - オ. 使用した主要材料については、下記主要材料表のように記載すること。

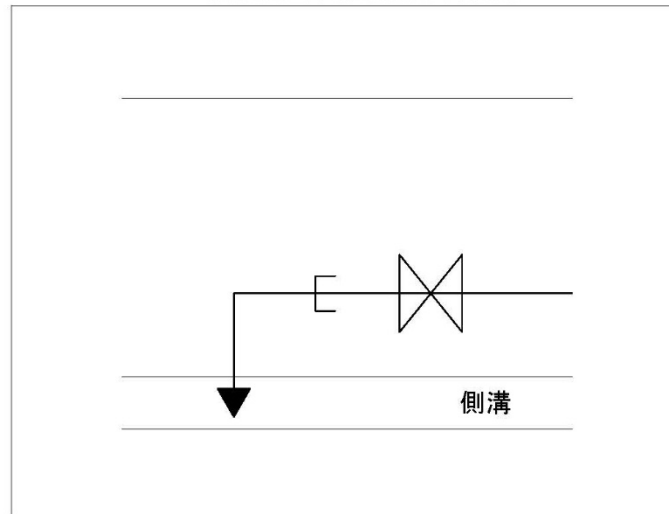
主要材料表	
名称	製造元
DIP-GX	〇〇(株)
HPPE	〇〇(株)
PE	〇〇(株)
仕切弁	〇〇(株)
青銅仕切弁	〇〇(株)
不断水 T 字管	〇〇(株)
不断水仕切弁	〇〇(株)
消火栓	〇〇(株)
空気弁	〇〇(株)
DIP-GX 付分水栓	〇〇(株)
伸縮可とう管	〇〇(株)
(耐震用)特殊押輪	〇〇(株)
離脱防止機能付異種管継手	〇〇(株)
サドル付分水栓	〇〇(株)
凍結工法	〇〇(株)
ABS 工法	〇〇(株)

カ. 平面延長及び布設延長の記入は、仕切弁、消火栓、分岐点、折れ点及び深度の変化点に区切り記入する。なお、布設延長と平面延長が異なる場合は、布設延長を括弧書きで記入する。

キ. 不断水仕切弁及び不断水分岐設置箇所についても、記入する。

- ク. 仕切弁体（不断水仕切弁等含む）の残置状況を図上・文字共に明記すること。
- ケ. 平面図、配管詳細図の方角を合わせる。
- コ. 排泥管工の排水先は「→」とすること。

排泥管工：排水先の書き方



(2) 出幅・深度の表示は、次のとおりとする

- ア. 出幅は、原則として官民境界線からの距離とする。
- イ. 深度は、道路面から管上までの距離とする。
- ウ. 数値は、m 単位で少数点 1 位まで記入する。
- エ. 直線部については、50m 間隔毎、又は道路 1 スパンに 1 箇所以上記入する。
- オ. 新設管と既設管との連絡箇所については必ず記入する。
- カ. 布設位置に変化が生じた場合は、変化点の前後を記入する。
- キ. 出幅を測る基準点が無い時は、監督員の承諾を受け深度のみ記入する。

4. 平面図

- (1) 地形の他、必要に応じて道路名（国道及び県道）・河川名（1 級河川・2 級河川・準用河川）・鉄道（ＪＲ・名鉄）等の名称も合わせて記入する。また、方位も必ず記入する。

- (2) 管路及び施工区分の表示は、次のとおりとする。

施工区分表示（路線名等）は、区分が明確に判別できるように表示する。また、工事起点及び終点も記入する。

- (3) 配水管の布設工事において既設管を残置する場合は、その残置状況（栓止め残置、エアモルタル充填残置等）を明記する。

- (4) 給水管の引込みは、別紙の「給水管切替工タイプ一覧（参考図 1）」による竣工図上での表記方法に基づくものとし、水栓番号及びメーター口径を記入する。

また、給水位置が異なった場合は、現状に合わせた位置を平面図に明記する。

- (5) 断面図位置を必ず記入すること。

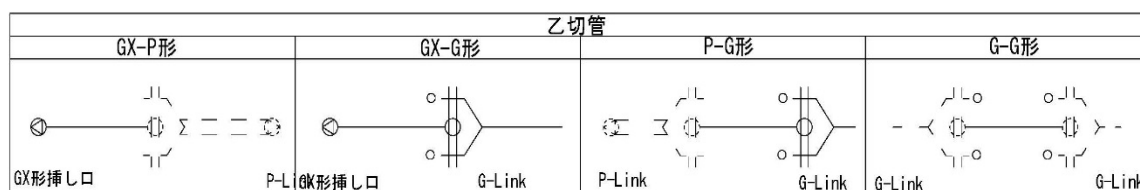
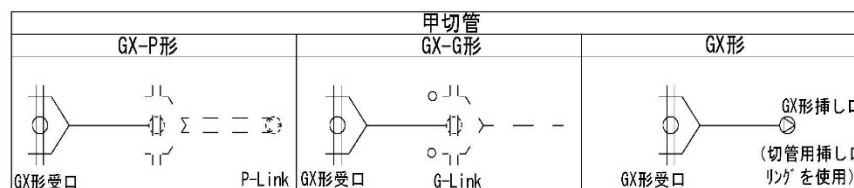
5. 断面図

- (1) 原則、道路全幅員にて図面を作成すること。

- (2) 官民境界部に側溝がなく、道路端部と舗装端部が同一でない場合は、舗装幅員も明示すること。
- (3) 施工にあたり位置を確認した他の埋設物件（下水道管・ガス管等）や既設管の残置に関する情報も可能な限り記入する。

6. 配管詳細図

- (1) 直管が連続した場合は、中間の継手記号は省略し、本数又は延長のみ記入する。
- (2) 平面図と配管図と整合のとれたものを原則として記入する。
- (3) 配管詳細図の新設管の深度が変化する箇所及び道路の横断箇所は、側面図を作成する。
- ア. 側面図の記入方法は竣工図作成例 1 及び 3 に準拠する。
- イ. 側面図の配管図を作成し、深度を記入する。また、施工に当り影響した他の埋設物件があれば、新設管との離隔寸法、管種、呼び径及び深度を記入する。
- ウ. 既設管との連絡箇所については、既設管の形状寸法（管種、継手、呼び径）深度及び出幅を記入すること。
- エ. 側面図は、上記の他、監督員から指示があるものについても記載する。
- (4) 消火栓及び空気弁のレジンコンクリート BOX の新設をした場合は、組立図を記入すること。
- (5) GX 形の切管がある場合は、甲切管と乙切管の呼称表記を下記の記載例のとおり表記すること。



7. その他詳細図

- (1) 管布設の際に特殊な防護を行った場合は、防護方法等を表示する。
- ア. コンクリート防護であれば、形状寸法及び配筋ピッチ等を記入する。
- イ. 鞘管防護であれば、管種及び呼び径等を記入する。
- (2) 特殊な工法により管の布設を行った場合は、その詳細を表示する。
- ア. 推進工法であれば、施工方法を記入すること。
- イ. 水管橋であれば、本体及びそれに付属する構造物の形態（形状寸法等）を記入すること。
- (3) 弁室・設備等がある場合は、形態（形状寸法等）を記入する。

- (4) 仮配管で使用した割Ｔ字管及びサドル分水栓等においても、詳細がわかるようにオフセット図を記入すること。
- (5) 基準点（杭・擁壁等構造物）となるものを図面へ記入すること。

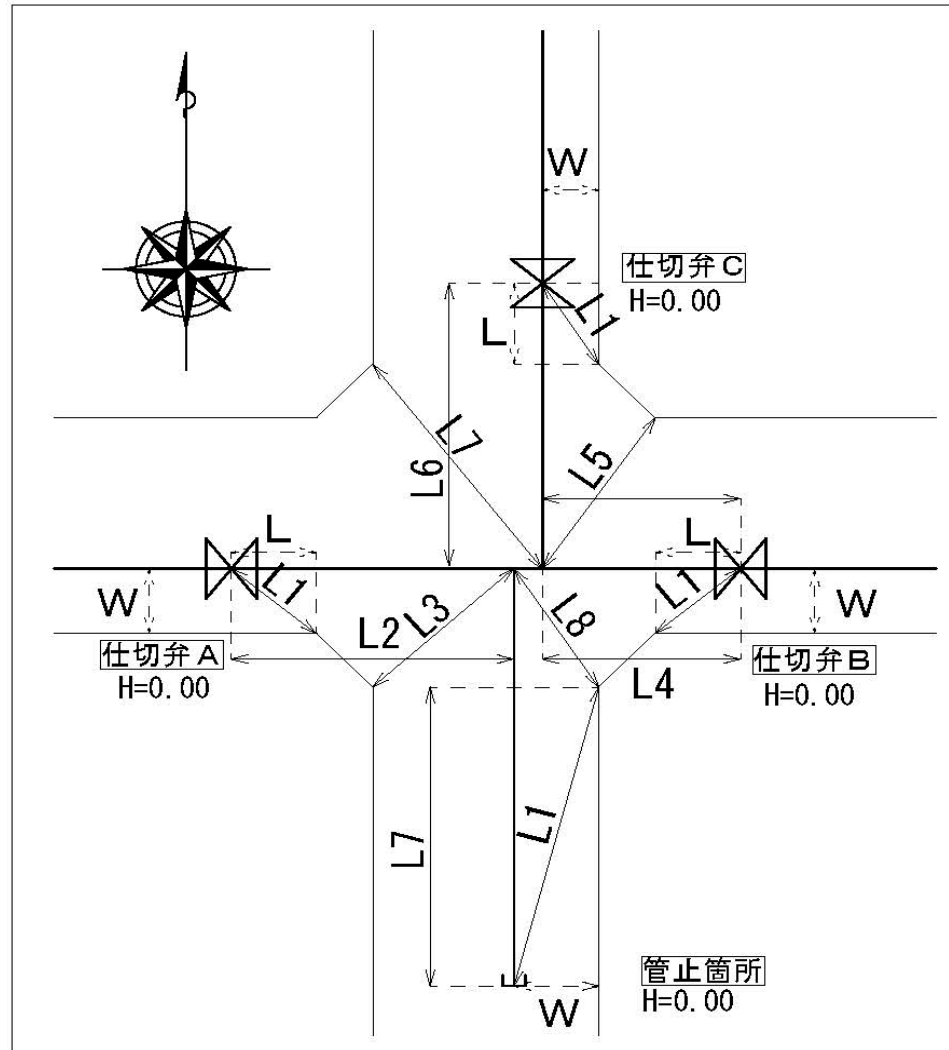
8. 給水管詳細図

- (1) 平面図・止水栓位置図及び横断図を１組とし、A4 で水栓番号毎に作成する。
- (2) 記入方法は**豊川市給水装置工事施行基準**による
表示単位は上記に関わらず、道路幅員及び給水管の布設延長等はm単位で小数点２位を四捨五入して小数点１位まで(0.1m単位)、管及びメーターの呼び径はmm単位で作成する。)
- (3) 止水栓位置は、隣地境界及び官民境界からの距離を平面図・止水栓位置図に記入する。
また、北上になるように方位を記入する。（隣地境界が不明確な場合は、監督員と協議し、水道施設または道路線形が変化している点からの距離を記入すること。）
- (4) 横断図には、給水管の布設延長を記入する。
- (5) 給水管取出し箇所(サドル分水栓及び不断水Ｔ字管設置箇所) が仕切弁・不断水仕切弁・消火栓設置箇所から 5m 以内であれば、そこからのオフセットも記入する。
- (6) 給水取出し箇所から 1 m以内に配水管の継手がある場合は、継手の記号を記入するとともに継手端面と分水栓または割Ｔ字管の芯との離隔を記入する。
- (7) 給水管取付替の前後で取出位置が 5 m以上離れる場合、路線が異なる場合、他人の土地を通過していたものを解消した場合は、取付替前の給水管を撤去表示する。
- (8) 宅内配管を布設替した場合は、その部分を実線表記し情報を記入する。

9. オフセット図

- (1) 仕切弁、消火栓、空気弁、管止め箇所、既設管との接続箇所（新旧連絡箇所）、本線から支線への分岐箇所及び仮設時に設置したサドル分水栓及び不断水Ｔ字管設置箇所は必ず記入する。また、深度（H）、出幅（W）も記入する。
- (2) 道路形態が複雑で、均一な出幅で施工できないような路線に埋設する場合は、施工計画時に監督員と協議し、折れ点等のオフセットをとる場所を決める。
- (3) 距離（L）は、仕切弁、消火栓及び空気弁はすみ切りからの距離とし、管止め箇所、新旧連絡箇所及び分岐箇所は仕切弁からの直線距離とする。
- (4) オフセット図記載方法例（下記及び竣工図作成例２及び３参照）。
なお、記載例で仕切弁、消火栓、空気弁及び分岐点はすみ切りから３点目を記入すること。
- (5) 基準点（杭・擁壁等構造物）となるものを図面へ記入すること。
- (6) オフセット基点は原則としてマンホール、電柱等からは引照点としないこと。

オフセットのとり方



様式等

竣工図チェックリスト（様式 1）

給水切替工タイプ一覧（参考図 1）

【様式1】

竣工図チェックリスト

工事名					
請負者		現場代理人			
専任監督員		工務係労務職		維持係	
工期	令和	年	月	日	～令和

年	月	日
---	---	---

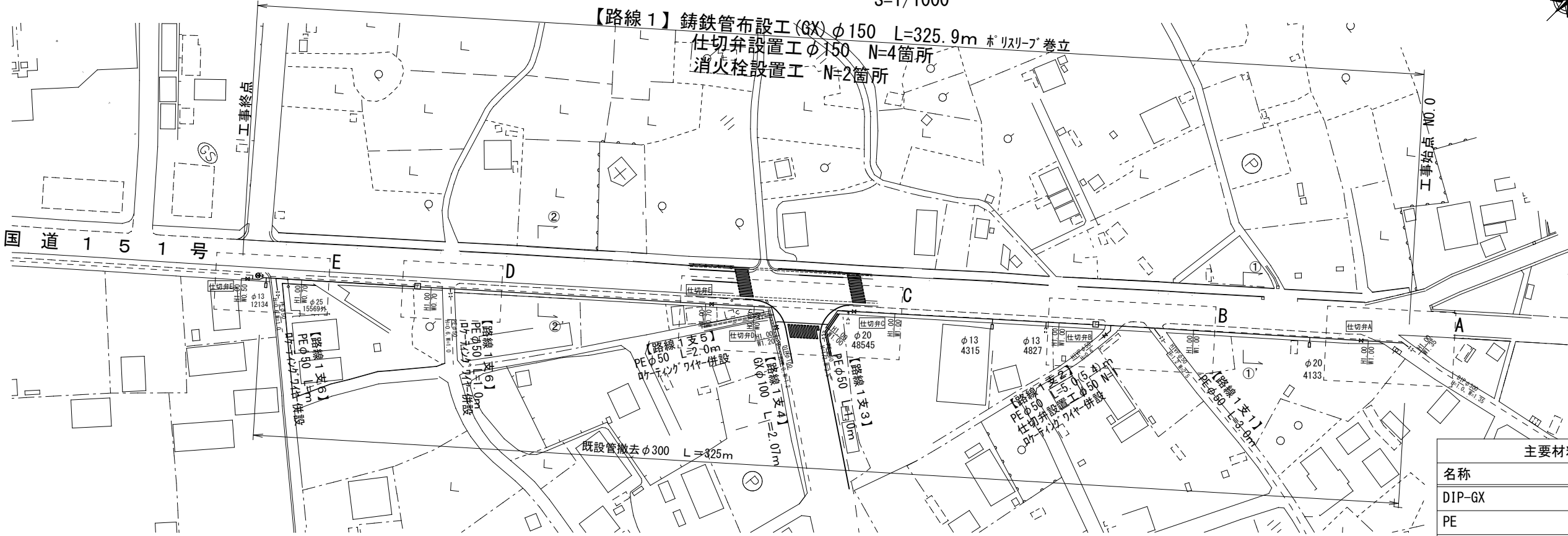
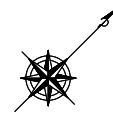
番号	チェック項目	現場 代理人	専任 監督員	工務係 労務職	維持係
位置図					
1	図面の方位及び縮尺が正しく記入してあるか。				
2	表題欄の記入は正しいか。				
3	所在を示す町名、目標物及び建物の名称が正確に記入してあるか。				
4	施工箇所は、太い実線で明確に表示されているか。				
5	複数の路線がある場合は路線名【路線〇】も記入されているか。				
平面図					
1	図面の方位及び縮尺が正しく記入してあるか。				
2	表題欄の記入は正しいか。				
3	路線に起終点が記入されているか。				
4	地形図に国県道名、河川名及び鉄道等の名称が記入されているか。				
5	断面図位置が記入されているか。				
平面図（詳細）					
6	新設管「太い実線」、既設管「細い破線」、他埋設物「一点鎖線、二点鎖線」で明確に記入されているか。				
7	平面延長及び布設延長は記入されているか。また、布設延長を括弧書きで記入されているか。（小数第1位まで）				
8	仕切弁、消火栓、分岐点、折れ点及び深度変化点の記入はされているか。				
9	新設管の出幅・深度は正確に記入されているか。（小数第1位まで）				
10	新設管及び仕切弁類、または管種・継手・呼び径及び延長は正確に記入されているか。（全延長は小数第1位・各路線の延長は小数第2位まで）				
11	既設管と新設管の連絡箇所において、既設管の管種・口径及び出幅・深度が記入されているか。（小数第1位まで）				
12	不排水仕切弁及び不排水分岐箇所の記入はされているか。（仮設を含む）				
13	既設残置管の記載及び残置状況（栓止め残置、エアモル充填残置等）は明記されているか。				
14	給水管の引込みは、給水管詳細図と同じ方向、水栓番号、口径で記入してあるか。				
断面図					
1	図面の方位及び縮尺が正しく記入してあるか。				
2	表題欄の記入は正しいか。				
3	新設管「太い実線」、既設管「細い破線」、他埋設物「一点鎖線、二点鎖線」で明確に記入されているか。				
4	官民境界部に側溝がなく、道路端部と舗装端部が同一でない場合は、舗装幅員も記入されているか。				
5	他の埋設物件の情報や既設残置管の情報は可能な限り記入されているか。（小数第2位まで）				

番号	チェック項目	現場 代理人	専任 監督員	工務係 労務職	維持係
配管詳細図					
1	図面の方位及び縮尺が正しく記入してあるか。				
2	表題欄の記入は正しいか。				
3	路線に起終点が記入されているか。				
配管詳細図（詳細）					
4	新設管「太い実線」、既設管「細い破線」、他埋設物「一点鎖線、二点鎖線」で明確に記入されているか。				
5	平面延長及び布設延長は記入されているか。また、布設延長を括弧書きで記入されているか。（小数第1位まで）				
6	仕切弁、消火栓、分岐点、折れ点及び深度変化点の記入はされているか。				
7	新設管の出幅・深度は正確に記入されているか。（小数第1位まで）				
8	新設管及び仕切弁類、または管種・継手・呼び径及び延長は正確に記入されているか。（全延長は小数第1位・各路線の延長は小数第2位まで）				
9	深度変化箇所において側面図は記入されているか。また、離隔寸法、管種、呼び径及び深度も記入されているか。（小数第2位まで）				
10	既設管と新設管の連絡箇所において、既設管の管種・口径及び出幅・深度が記入されているか。（小数第1位まで）				
11	不排水仕切弁及び不排水分岐箇所の記入はされているか。（仮設を含む）				
12	主要材料表が記載されているか。				
13	消火栓・空気弁・レジンコンクリート製ボックス及びバタフライ弁室を新設した場合は、組立図が記入されているか。				
オフセット図					
1	図面の方位及び縮尺が正しく記入してあるか。				
2	表題欄の記入は正しいか。				
3	新設管「太い実線」、既設管「細い破線」、他埋設物「一点鎖線、二点鎖線」で明確に記入されているか。				
4	新設管及び仕切弁類、管種・継手及び呼び径は正確に記入されているか。				
5	新設管の出幅・深度は正確に記入されているか。（小数第1位まで）				
6	不排水仕切弁及び不排水分岐箇所の記入はされているか。（仮設を含む）				
7	既設管と新設管の連絡箇所において、既設管の管種・口径及び出幅・深度が記入されているか。（小数第1位まで）				
8	オフセットは正しく記入されているか。（小数第2位まで） 基準点を記載されているか。（仕切弁・新旧連絡・深度変化・消火栓・不排水弁・不排水T字管・仮設ナット分水栓・管止め等）				
9	基準点（境界杭・擁壁等構造物）となるものを図面へ記入されているか。				
給水管詳細図					
1	原則、紙面上部が北を指し、方位記号が記入されているか。				
2	右上に水栓番号・ナット分水栓口径・メーター口径 or 止水栓口径・取出し口径・工事番号及び路線名の記入はされているか。				
3	延長はすべて小数第1位までとなっているか。				
4	道路境界は「実線」、隣地境界は「二点鎖線」で表記されているか。				
5	給水取出し箇所から1m以内に配水管の継手がある場合は、継手の記号を記入するとともに継手端面と分水栓または割T字管の芯との離隔を記入する。				
6	給水管取出し箇所が仕切弁・不排水仕切弁・消火栓設置箇所から5m以内であれば、そこからのオフセットも記入する。				
7	給水管引込状況図と竣工図平面図の給水管位置が正しく記入されているか。				
水管橋					
1	橋梁一般図及び単独橋の図面に管種、布設延長及び平面延長が正確に記入されているか。また、防護寸法は記入されているか。				
2	材料詳細図は正しく記入されているか。				
推進工法					
1	推進工平面図に管種、布設延長及び平面延長は記入されているか。				
2	推進断面図に立坑位置及び推進管内挿入詳細図は正しく記入されているか。（仮設の残置等（深さ、位置）が明記されているか）				

竣工図作成例 1

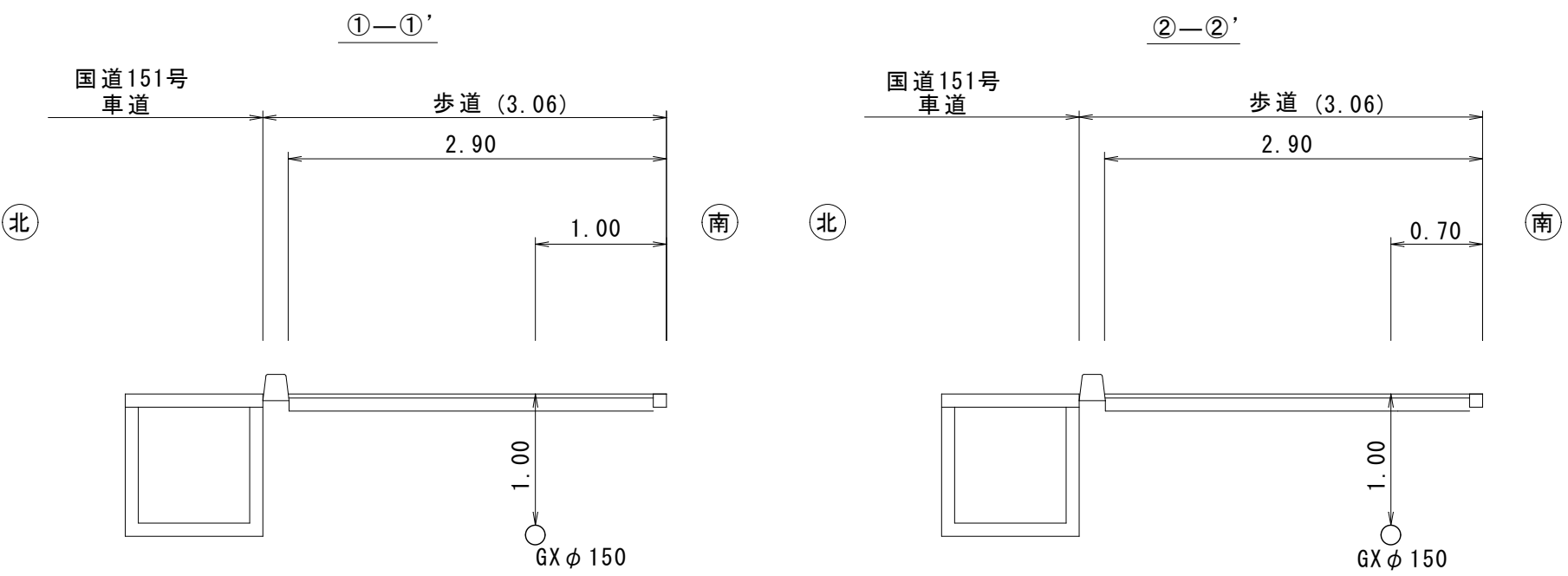
平面図

S=1/1000



断面図

S=1/100



主要材料表	
名称	製造元
DIP-GX	〇〇(株)
PE	〇〇(株)
仕切弁	〇〇(株)
青銅仕切弁	〇〇(株)
不断水T字管	〇〇(株)
不断水仕切弁	〇〇(株)
消火栓	〇〇(株)
空気弁	〇〇(株)
DIP-GX形ホースル弁付T字管	〇〇(株)
伸縮可とう管	〇〇(株)
(耐震用)特殊押輪	〇〇(株)
離脱防止機能付異種管継手	〇〇(株)
サドル付分水栓	〇〇(株)

工 事 名	〇〇〇町配水管布設替工事R〇〇-〇〇		
工事場所	豊川市〇〇〇町地内		
図 名	平面図・断面図		
図面番号	〇枚の内〇	縮 尺	図示のとおり
請負業者	(株)〇〇〇〇	用紙サイズ	A 3
現場代理人	〇〇 〇〇		
監 督 員	〇〇 〇〇		
工 期	令和〇〇年〇〇月〇〇日から令和〇〇年〇〇月〇〇日		

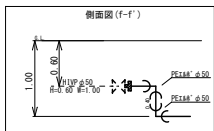
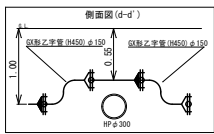
竣工図作成例 2

配管詳細図

S=1/FREE

【路線 1】 鋳鉄管(GX) φ150 L=325.9m ホリスリブ巻立
仕切弁設置工 φ150 N=4箇所
消火栓設置工 N=2箇所

【路線 1 支 5】
PE φ50 L=2.0(2.4)m



【路線 1 支 4】
鋳鉄管(GX) φ100 L=2.07m
仕切弁設置工 φ100 N=1

【路線 1 支 3】
PE φ50 L=5.0(5.4)m

【路線 1 支 2】
PE φ50 L=5.0(5.4)m
仕切弁設置工 φ50 N=1
サドル付分枝

【路線 1 支 1】
PE φ50 L=3.0m
サドル付分枝

【路線 1】

【路線 1 支 7】
PE φ50 L=1.0(1.4)m

【路線 1 支 6】
PE φ50 L=1.0(1.4)m

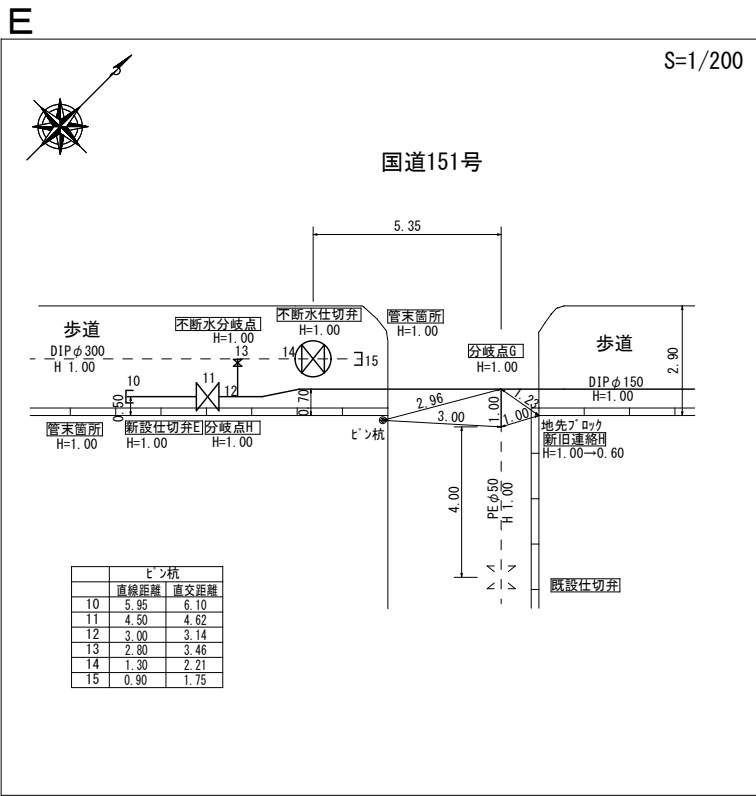
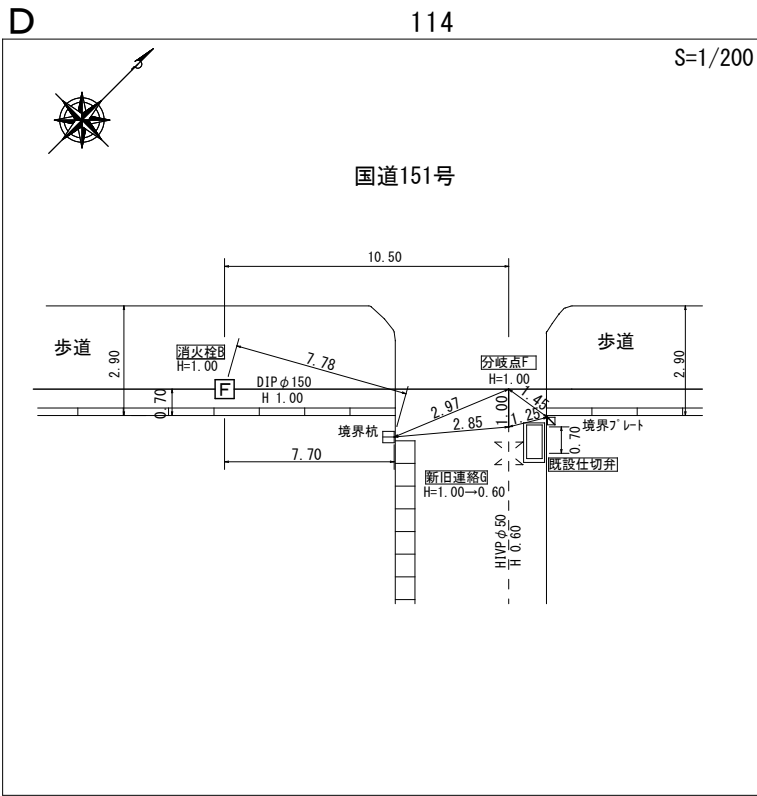
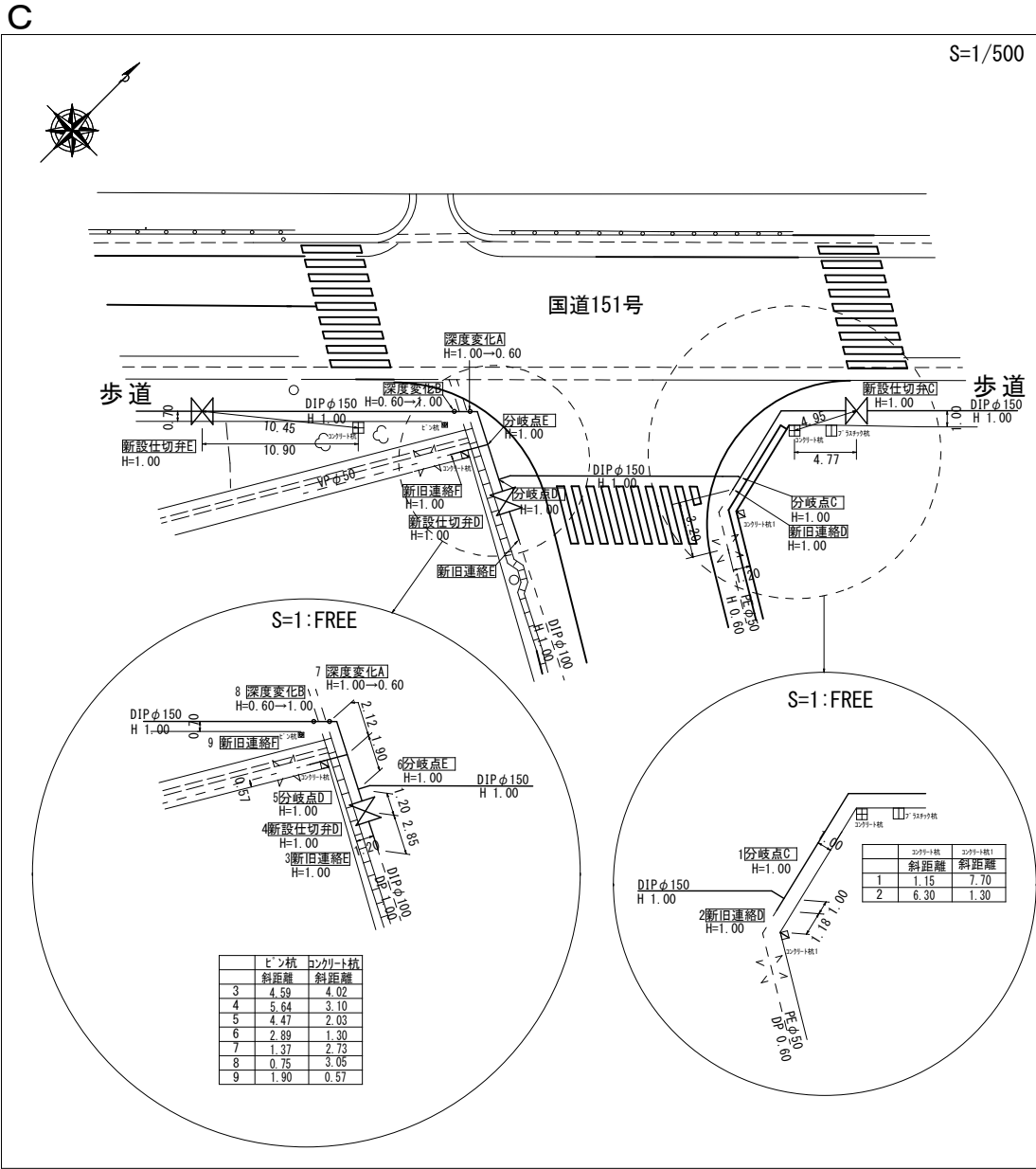
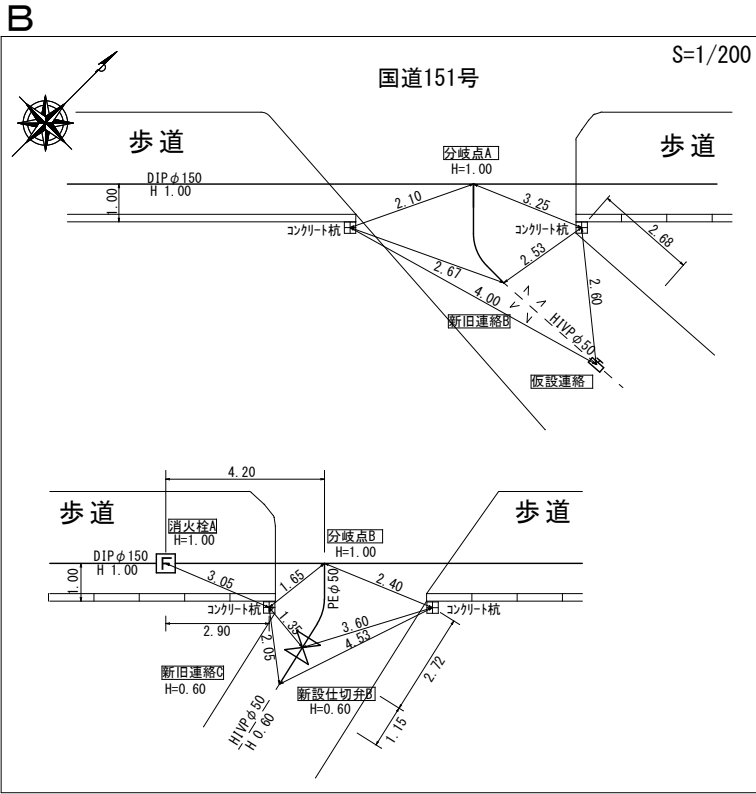
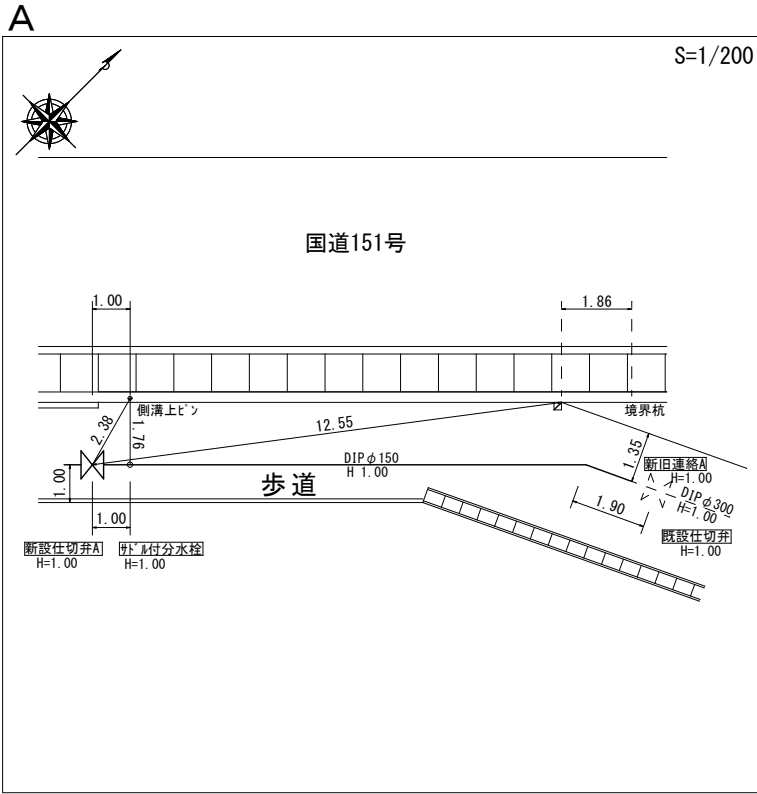
消火栓設置工(h=1.0m)

消火栓	消火栓箱
地下式消火栓(単口) ホリスリブ補修弁φ75×H150 両フランジ短管φ75×H300 GX形フランジ付T字管 φ150×75	消火栓鉄蓋 角形 H100 上部壁 レジコンボックスH350 下部壁 レジコンボックスH350 底版 H50

工 事 名	〇〇〇町配水管布設替工事R〇〇-〇〇		
工事場所	豊川市〇〇〇町地内		
図 名	配管詳細図		
図面番号	〇枚の内〇	縮 尺	図示のとおり
請負業者	(株)〇〇〇〇	用紙サイズ	A 3
現場代理人	〇〇 〇〇		
監 督 員	〇〇 〇〇		
工 期	令和〇〇年〇〇月〇〇日から令和〇〇年〇〇月〇〇日		

竣工図作成例 3

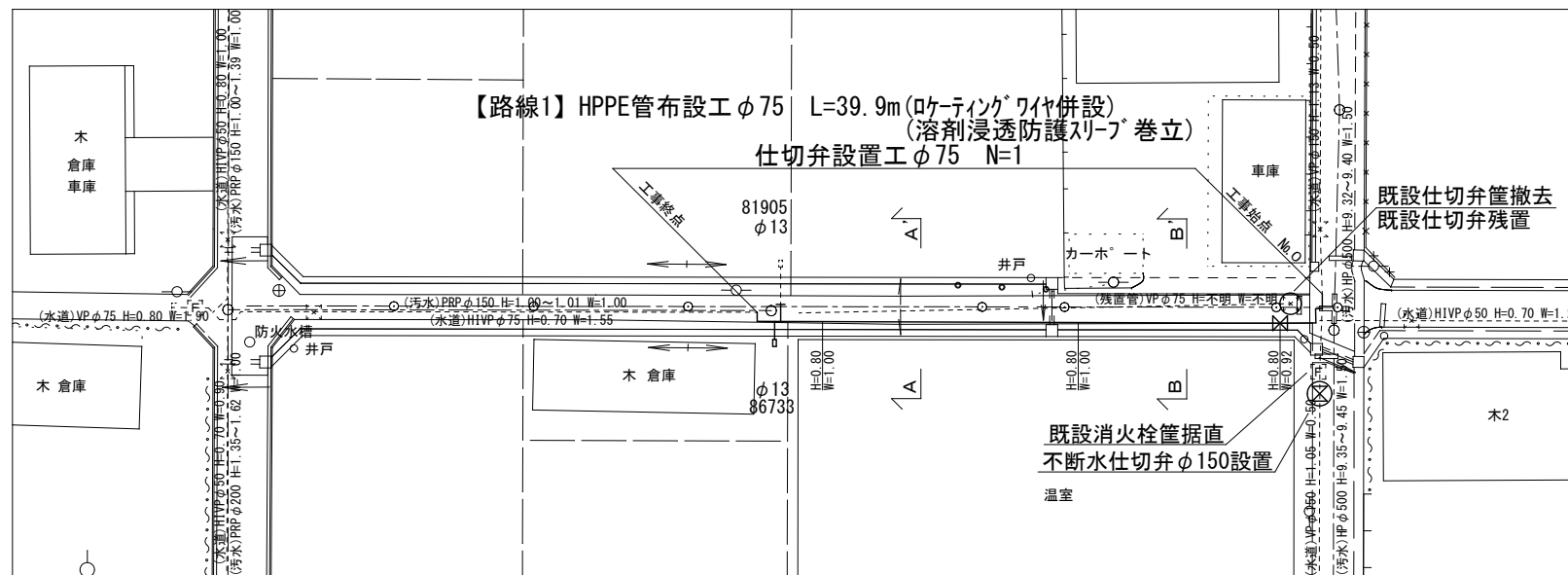
オフセット図



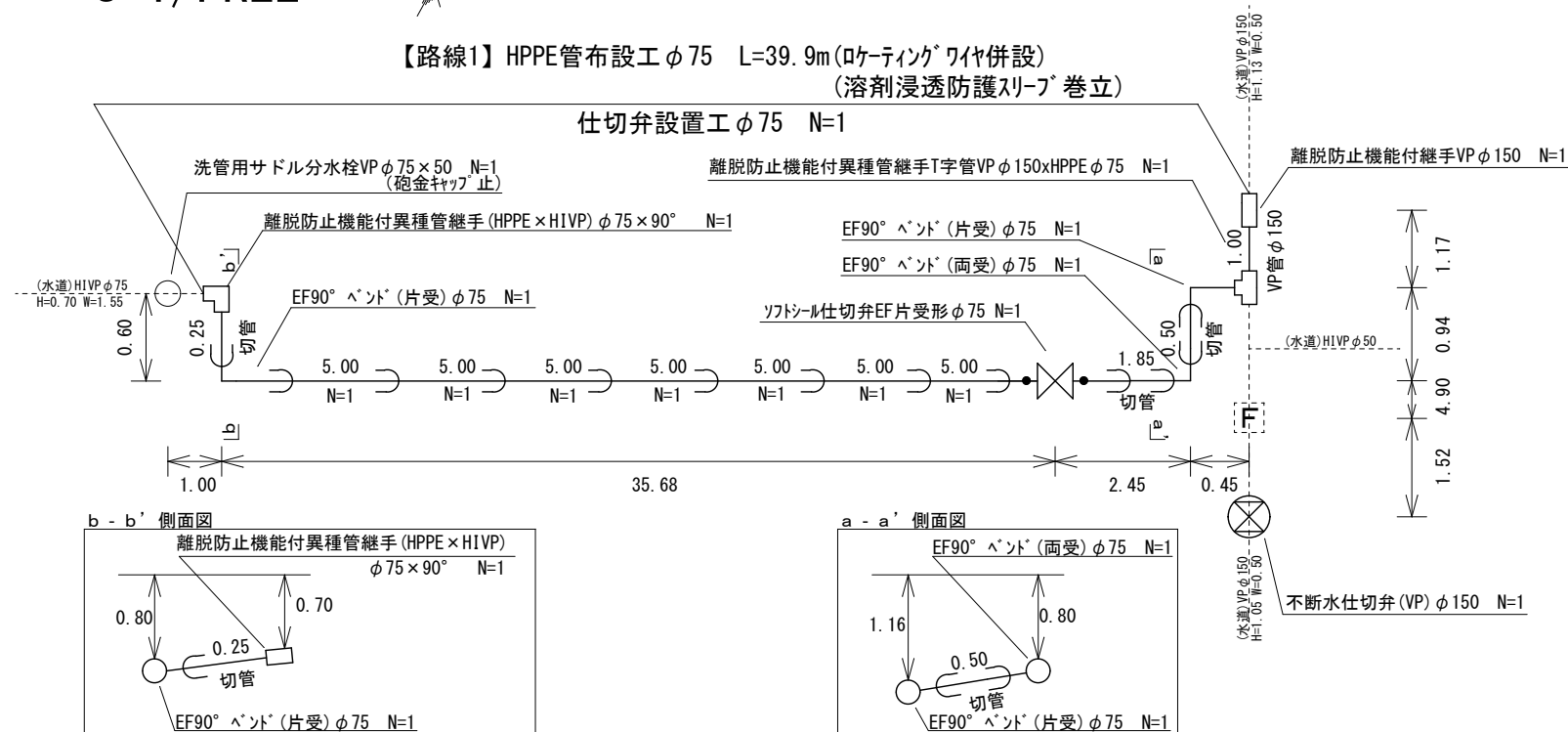
工事名	〇〇〇町配水管布設替工事ROO-〇〇		
工事場所	豊川市〇〇〇町地内		
図名	オフセット図		
図面番号	〇枚の内〇	縮尺	図示のとおり
請負業者	(株)〇〇〇〇	用紙サイズ	A3
現場代理人	〇〇 〇〇		
監督員	〇〇 〇〇		
工期	令和〇〇年〇〇月〇〇日から令和〇〇年〇〇月〇〇日		

竣工図作成例 4

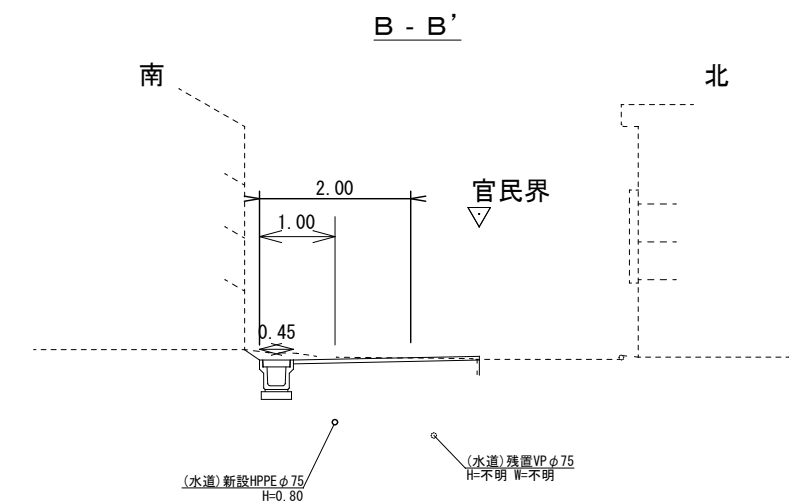
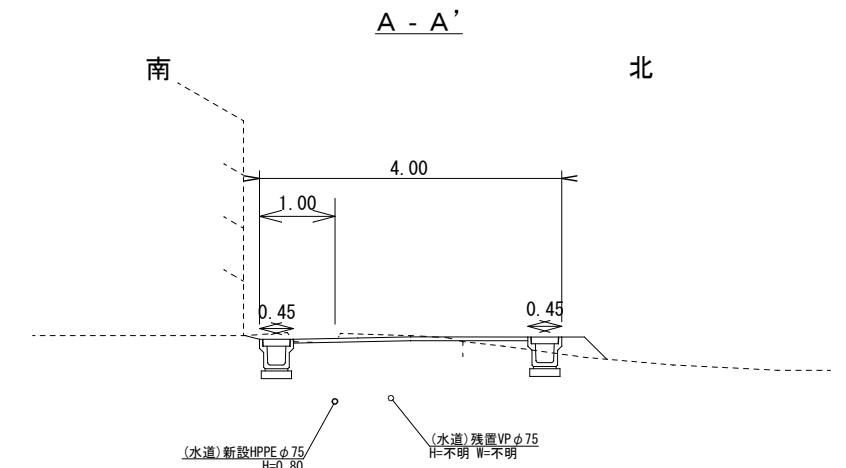
平面图
S=1/500



配管詳細図
S=1/FREE



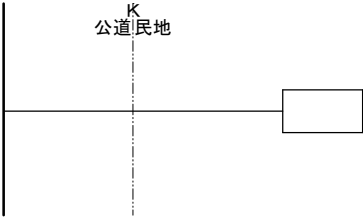
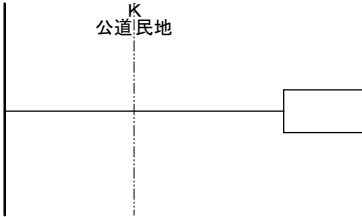
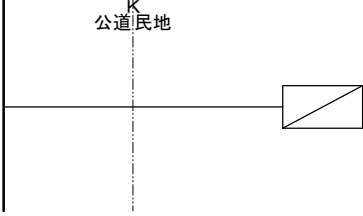
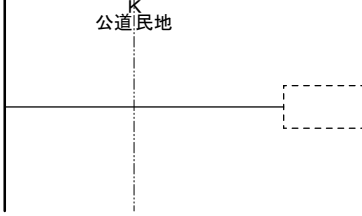
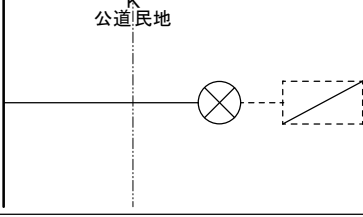
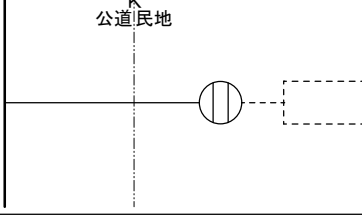
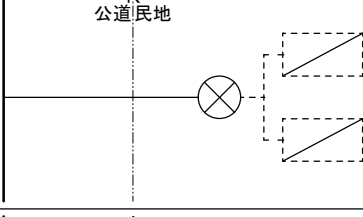
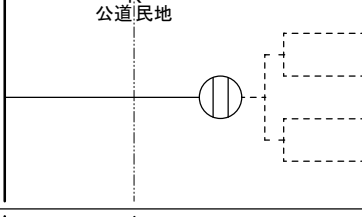
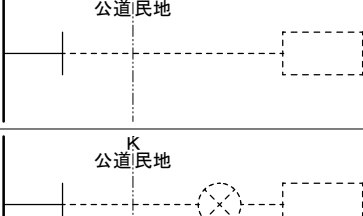
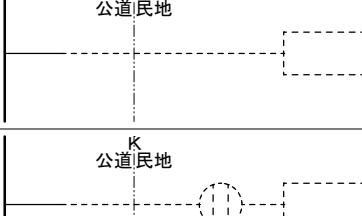
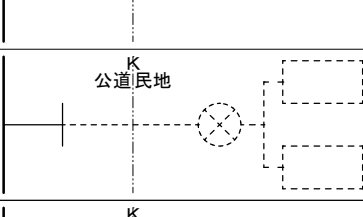
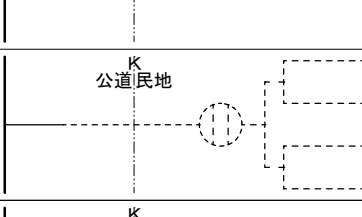
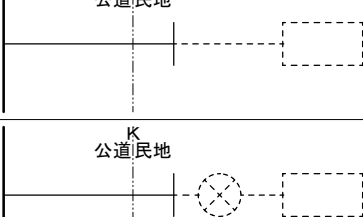
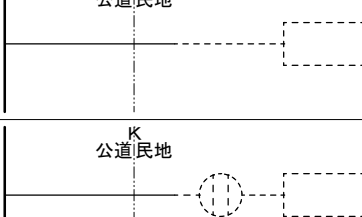
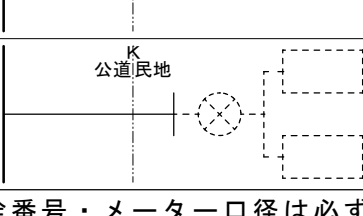
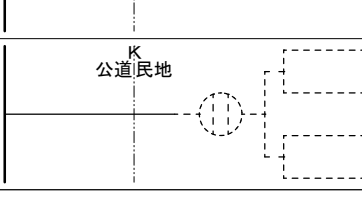
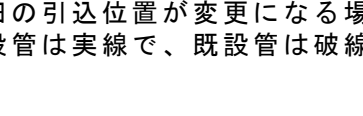
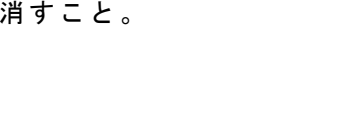
横断面図
S=1/100



工 事 名	〇〇〇町配水管布設替工事R〇〇-〇〇		
工事場所	豊川市〇〇〇町地内		
図 名	配管詳細図		
図面番号	〇枚の内〇	縮 尺	図示のとおり
請負業者	(株)〇〇〇〇	用紙サイズ	A 3
現場代理人	〇〇 〇〇		
監 督 員	〇〇 〇〇		
工 期	令和〇〇年〇〇月〇〇日から令和〇〇年〇〇月〇〇日		

給水切替工タイプ一覧

(配水管布設替及び新設工事における表記基準)

竣工図上での表記	適 用	給水装置施行基準での表記
	メーターボックスまで 取替えた場合。	
	メーターボックスを取替え なかった場合。	
	第一止水栓までを取替え メーターボックスを取替え なかった場合。	
	複数分岐給水管の場合で、 第一止水栓までを取替えた 場合。	
	公道上で既設管と連絡した場合。 (専用給水管の場合)	
	公道上で既設管と連絡した場合。 (旧基準の専用給水管の場合) ※止水栓が青銅仕切弁の場合	
	公道上で既設管と連絡した場合。 (複数分岐給水管の場合) ※止水栓が青銅仕切弁の場合	
	民地内で既設管と連絡した場合。 (専用給水管の場合)	
	民地内で既設管と連絡した場合。 (旧基準の専用給水管の場合) ※止水栓が青銅仕切弁の場合	
	民地内で既設管と連絡した場合。 (複数分岐給水管の場合) ※止水栓が青銅仕切弁の場合	

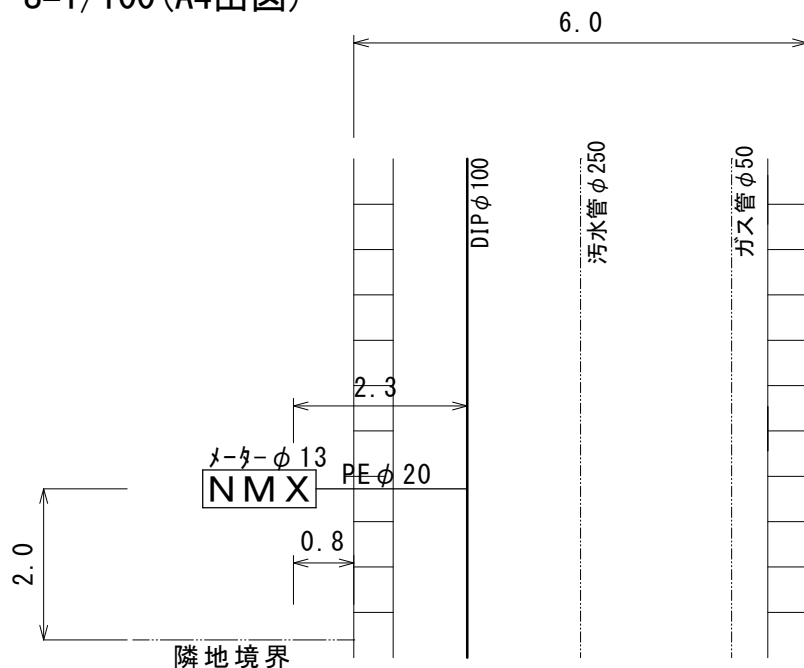
*1：水栓番号・メーター口径は必ず記載すること。

*2：新旧の引込位置が変更になる場合は、旧の給水管及びメーターを×で消すこと。

*3：新設管は実線で、既設管は破線で図示すること。

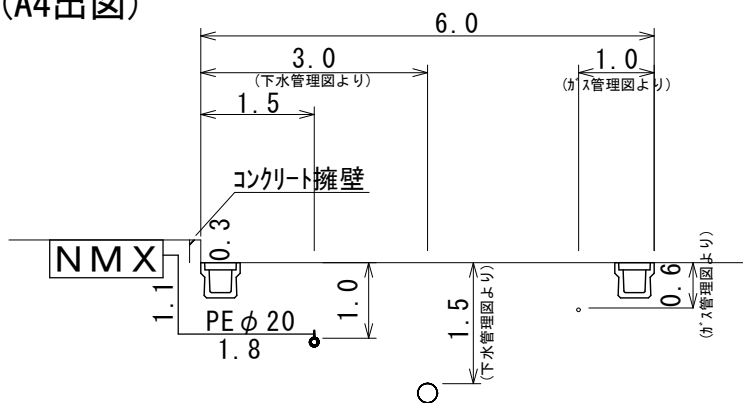
(メーターボックス取替パターン)

平面図・止水栓位置図
S=1/100 (A4出図)



水栓番号	00000
サドル	φ20
口径	φ20
メーター	φ13
工事番号	R0-00
路線名	路線1

横断図
S=1/100 (A4出図)



単位 : m

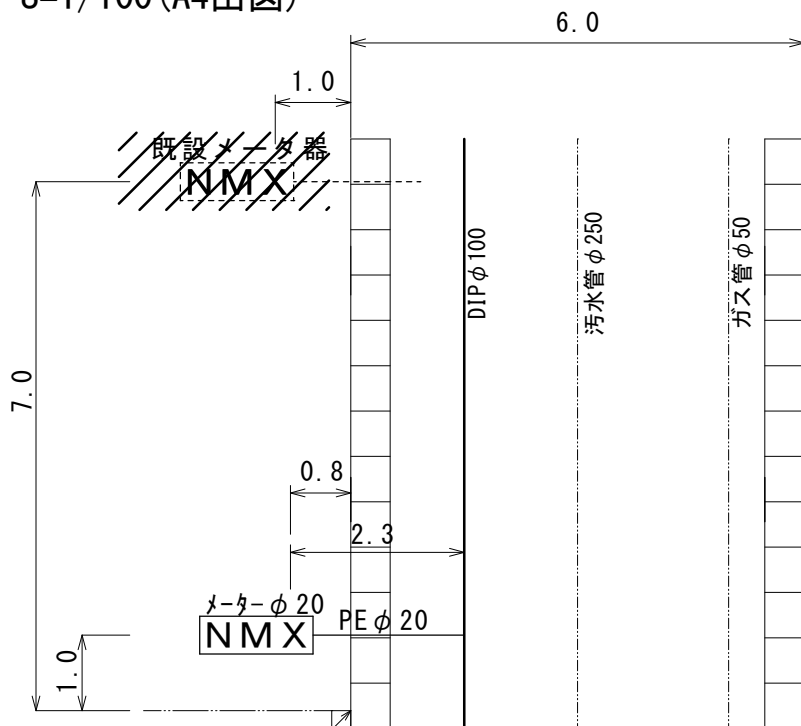
材料名	管種	口径	数量
分水材料 サドル分水栓	DIP	100×20	1
分水ソケット	PE	20	1
エルボ	PE	20	1
ロングエルボ	PE	20	1
伸縮ホール止水栓		20×13	1
逆止弁		13	1
メーター筐		13・20用	1
ポリエチレン管	PE	20	2.9m
底板			1
メーター台			2

請負業者

株式会社 ○○○○

(メーターボックス取替パターン(位置変更))

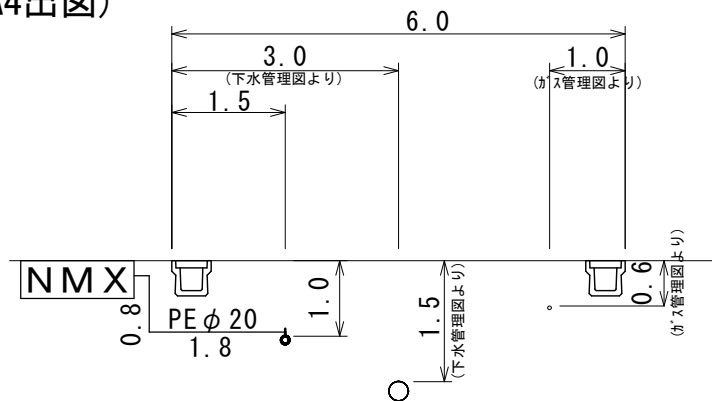
平面図・止水栓位置図
S=1/100 (A4出図)



水栓番号	00000
サドル	φ 20
口径	φ 20
取出	φ 20
メーター	φ 20
工事番号	R0-00
路線名	路線1



横断図
S=1/100 (A4出図)



単位 : m

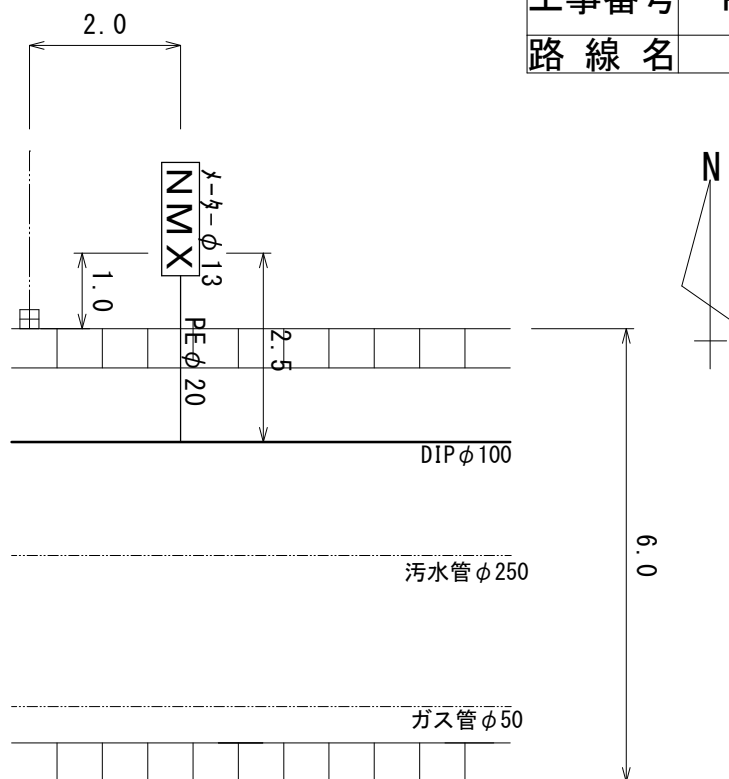
材料名	管種	口径	数量
分水材料 サドル分水栓	DIP	100 × 20	1
分水ソケット	PE	20	1
エルボ	PE	20	1
ロングエルボ	PE	20	1
伸縮ボール止水栓		20	1
逆止弁		20	1
メーター筐		13・20用	1
ポリエチレン管	PE	20	2.6m
底板			1
メーター台			1

請負業者

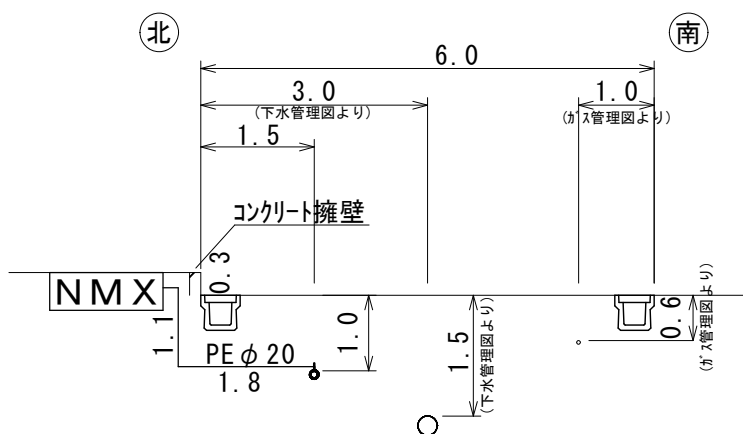
株式会社 ○○○○

(メーターボックス取替パターン)
東西道路

平面図・止水栓位置図
S=1/100 (A4出図)



横断図
S=1/100 (A4出図)



単位 : m

材料名	管種	口径	数量
分水材料 サトル分水栓	DIP	100×20	1
分水ソケット	PE	20	1
エルボ	PE	20	1
ロングエルボ	PE	20	1
伸縮ボール止水栓		20×13	1
逆止弁		13	1
メーター筐		13・20用	1
ポリエチレン管	PE	20	2.9m
底板			1
メーター台			2

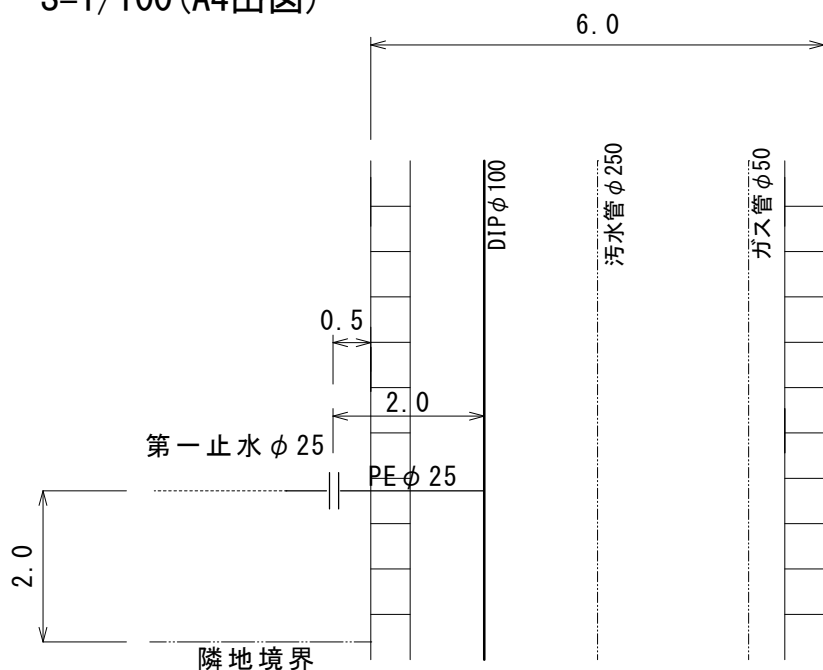
水栓番号	00000
サトル口径	φ20
取出口径	φ20
メーター口径	φ13
工事番号	R0-00
路線名	路線1

請負業者

株式会社 ○○○○

(第一止水栓取替パターン)

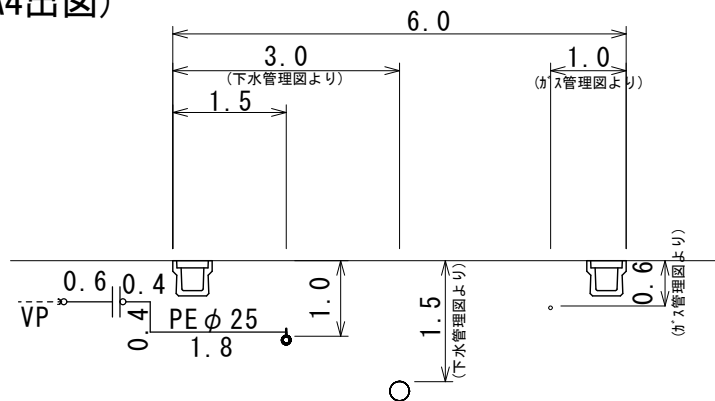
平面図・止水栓位置図
S=1/100 (A4出図)



水栓 番号	親栓番 子栓番	0 0 0 0 0 他 3 軒 0001、0002、0003
口径	サドル 取出 止水	φ25 φ25 φ25
工事番号	R 0 - 0 0	
路線名	路線1	



横断図
S=1/100 (A4出図)



単位 : m

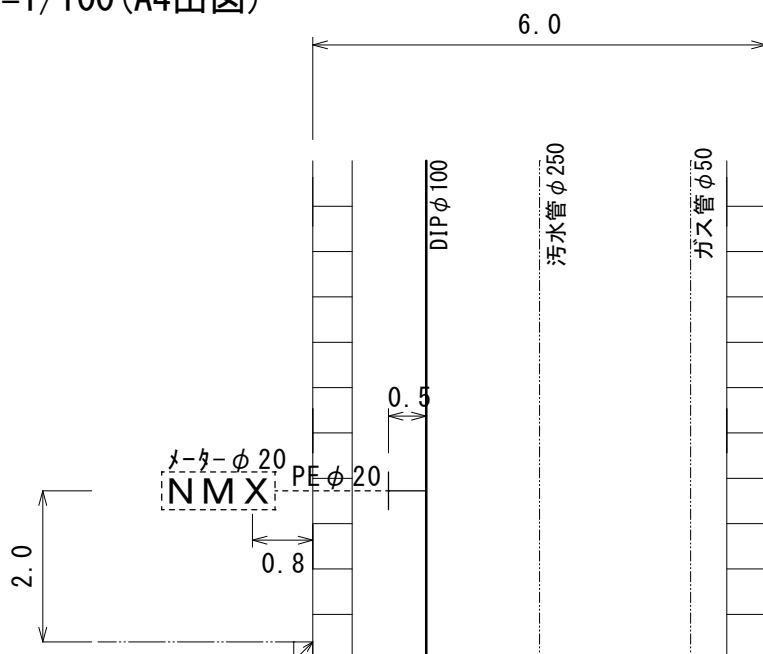
材料名	管種	口径	数量
分水材料 サドル分水栓	DIP	100 × 25	1
分水ソケット	PE	25	1
PEオネシ付ソケット	PE	25	1
PEエルボ		25	2
青銅仕切弁		25	1
止水栓筐		13 ~ 25	1
ポリエチレン管	PE	25	3.2m
PVソケット		25	1

請負業者

株式会社 ○○○○

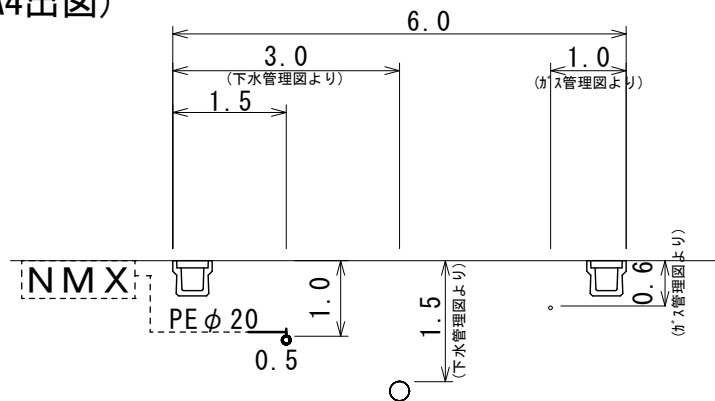
(公道つなぎパターン)

平面図・止水栓位置図
S=1/100 (A4出図)



水栓番号	00000
サドル	φ20
口径	φ20
取出	φ20
メーター	φ20
工事番号	R0-00
路線名	路線1

横断図
S=1/100 (A4出図)



単位：m

材料名	管種	口径	数量
分水材料 サドル分水栓	PE	100×20	1
分水ソケット	PE	20	1
PEソケット	PE	20	1
ポリエチレン管	PE	20	0.5m

公道つなぎの理由

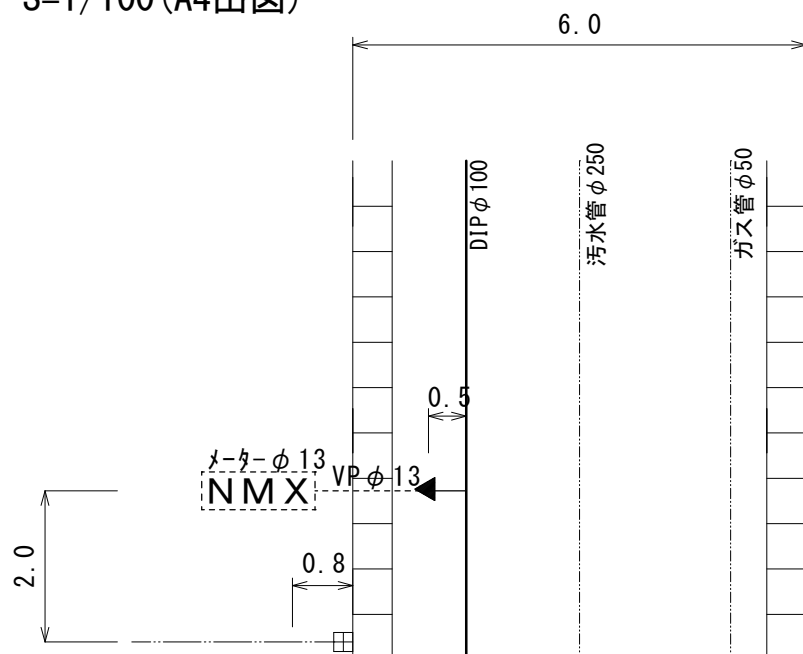
1. 需要者の要望のため
2. 既設管が現行の給水装置施行基準に合致していたため
3. ()

請負業者

株式会社 ○○○○

(公道つなぎパートナー)

平面図・止水栓位置図
S=1/100 (A4出図)



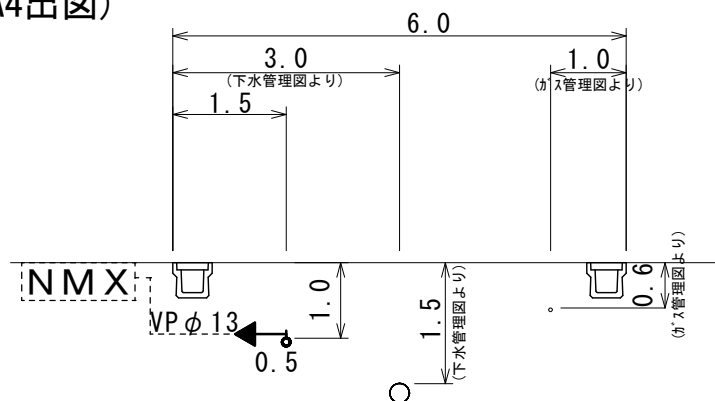
水栓番号	00000
------	-------

口径	サトル	φ 20
	取出	φ 13
	メーター	φ 13

工事番号 R0-00

路 線 名	路線1
-------	-----

横断図
S=1/100 (A4出図)



單位：m

材料名	管種	口径	数量
分水材料 サドル分水栓	DIP	100×20	1
分水ソケット	PE	20	1
PV異径ソケット		20×13	1
ホリエチレン管	PE	20	0.5m

公道つなぎの理由

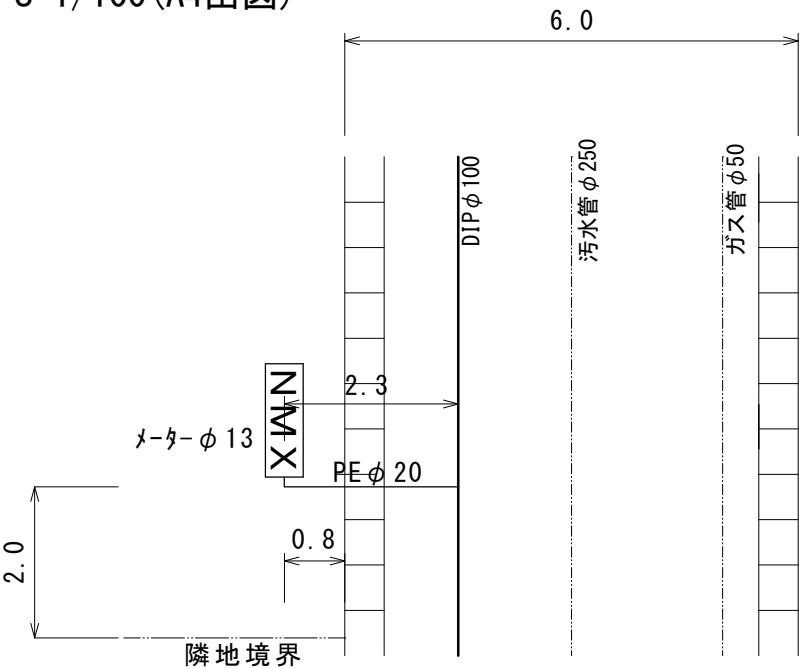
1. 需要者の要望のため
2. 既設管が現行の給水装置施行基準に合致していたため
3. ()

請負業者

株式会社 ○○○○

(メーターボックス取替パターン(横))

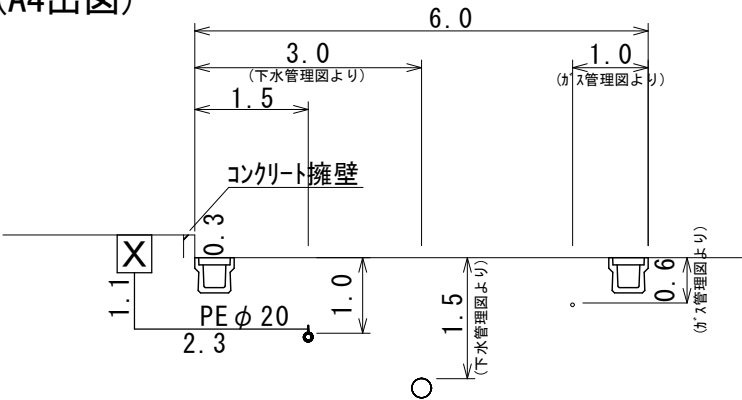
平面図・止水栓位置図
S=1/100 (A4出図)



水栓番号	00000
サドル	φ20
口径	φ20
メーター	φ13
工事番号	R0-00
路線名	路線1



横断図
S=1/100 (A4出図)



単位 : m

材料名	管種	口径	数量
分水材料 サドル分水栓	DIP	100×20	1
分水ソケット	PE	20	1
エルボ	PE	20	1
ロングエルボ	PE	20	1
伸縮ホール止水栓		20×13	1
逆止弁		13	1
メーター筐		13・20用	1
ポリエチレン管	PE	20	3.4m
底板			1
メーター台			2

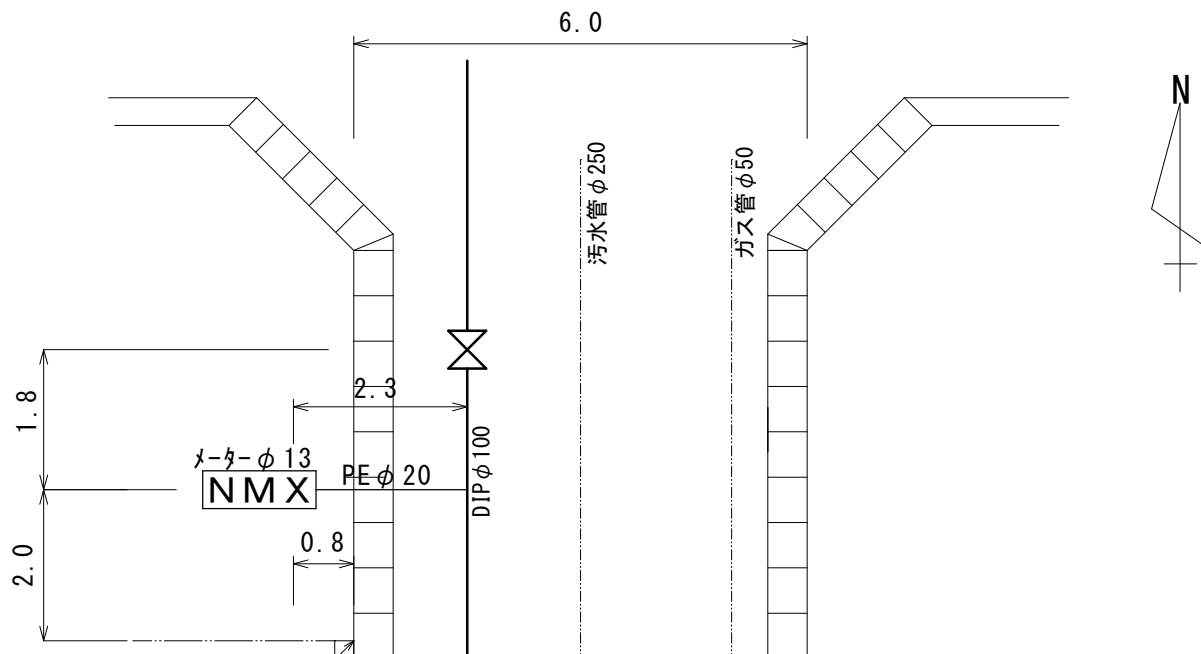
請負業者 株式会社 ○○○○

(メーターボックス取替パターン)

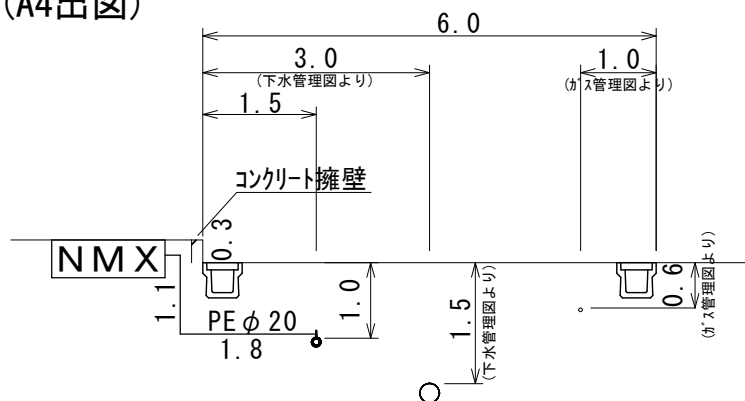
仕切弁から5m以内の場合

平面図・止水栓位置図
S=1/100 (A4出図)

水栓番号	00000
サドル	φ20
口径	φ20
取出メーター	φ13
工事番号	R0-00
路線名	路線1



横断図
S=1/100 (A4出図)



単位 : m

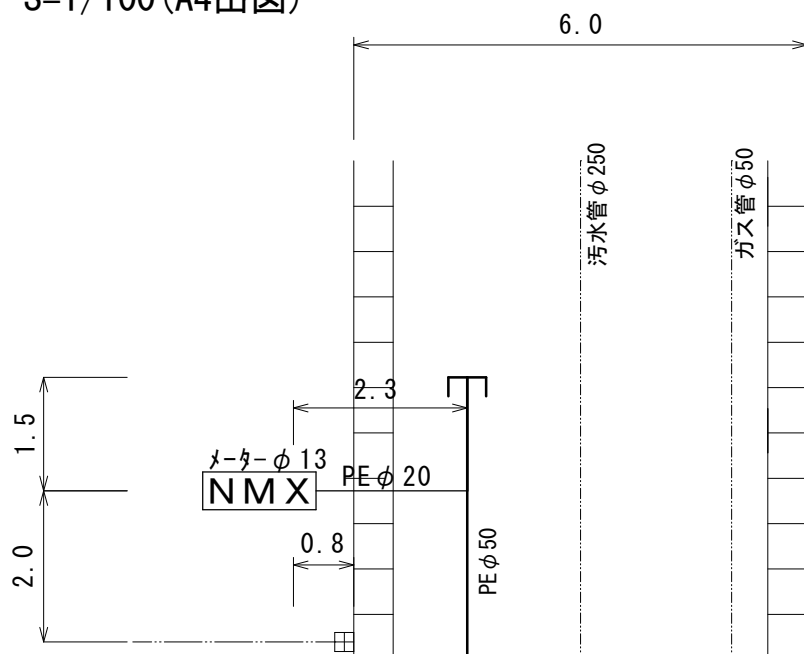
材料名	管種	口径	数量
分水材料 サドル分水栓	DIP	100×20	1
分水ソケット	PE	20	1
エルボ	PE	20	1
ロングエルボ	PE	20	1
伸縮ボール止水栓		20×13	1
逆止弁		13	1
メーター筐		13・20用	1
ポリエチレン管	PE	20	2.9m
底板			1
メーター台			2

請負業者

株式会社 ○○○○

(メーターボックス取替パターン)
配水管の管止めの場合

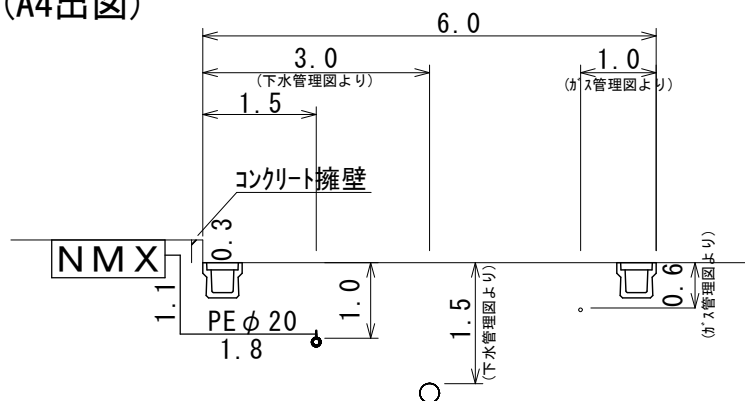
平面図・止水栓位置図
S=1/100 (A4出図)



水栓番号	00000
サドル	φ20
口径	φ20
取出	φ20
メーター	φ13
工事番号	R0-00
路線名	路線1



横断図
S=1/100 (A4出図)



単位 : m

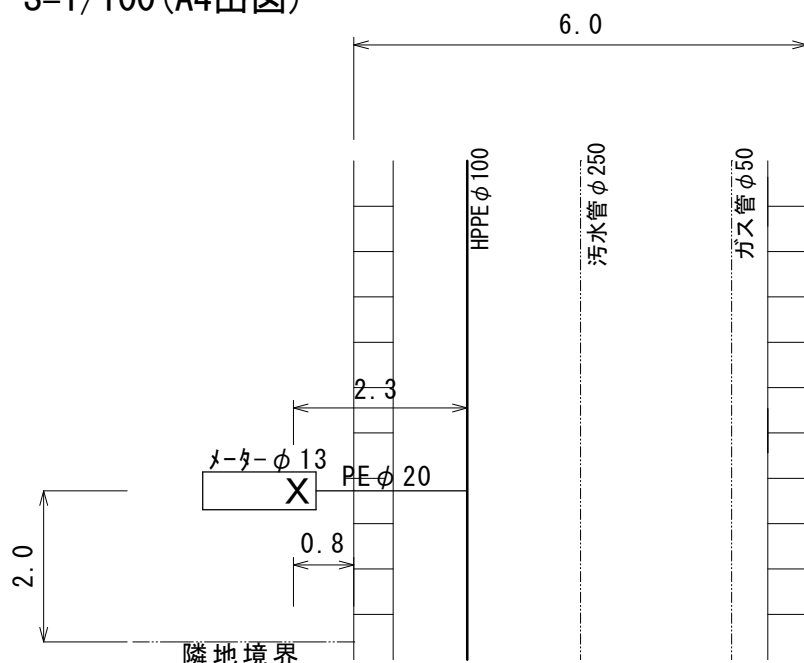
材料名	管種	口径	数量
分水材料 サドル分水栓	PE	50×20	1
分水ソケット	PE	20	1
エルボ	PE	20	1
ロングエルボ	PE	20	1
伸縮ボール止水栓		20×13	1
逆止弁		13	1
メーター筐		13・20用	1
ポリエチレン管	PE	20	2.9m
底板			1
メーター台			2

請負業者

株式会社 ○○○○

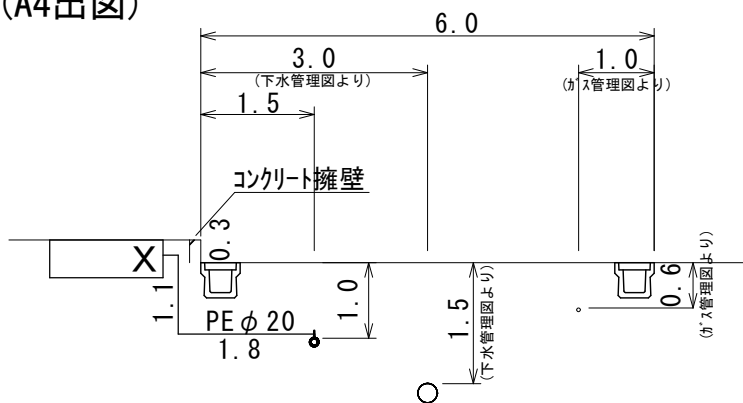
(メーターボックス取替パターン(止水栓止め))

平面図・止水栓位置図
S=1/100 (A4出図)



水栓番号	00000
サドル	φ20
口径	φ20
メーター	φ13
工事番号	R0-00
路線名	路線1

横断図
S=1/100 (A4出図)



単位 : m

材料名	管種	口径	数量
分水材料 サドル分水栓	HPPE	100×20	1
分水ソケット	PE	20	1
エルボ	PE	20	1
ロングエルボ	PE	20	1
伸縮ボール止水栓		20×13	1
盗水防止フラグ		13	1
メーター筐		13・20用	1
ポリエチレン管	PE	20	2.9m
底板			

請負業者

株式会社 ○○○○